

# 漂着物 アート展 2014

作品一覧



会場：氷見市海浜植物園 1階特設ギャラリー (入場無料)

平成 26 年

5

31 土 6

9:00~17:00  
休館日：火曜日

23 月

ブランナ・ドロタ  
[MESSENGER]

2013 年 最優秀賞  
ノアの方舟の話の「オリーブを運んで  
きた鳩」をテーマにしています。この  
鳩は新しい世界からのメッセンジャー  
ですが、残念なことに汚い姿で表現さ  
れています。私たちは自然、生態系、  
そして人間同士の関係を一度見直さ  
なければなりません。

プロデュース／富山大学芸術文化学部 後藤 敏伸

[主催] (一財) 氷見市花と緑のまちづくり協会、(公財) 環日本海環境協力センター  
[後援] 富山県、富山大学芸術文化学部、(公財) とやま環境財団  
[協力・作品制作] 富山大学芸術文化学部

## 漂着物アート展 2014 作品一覧



### Timeless memories

長浜 里見

流木は川から流れ、海に出る。  
長い時間をかけ、海の記憶を私のところまで運んでくれる。  
海は、領海はあれど、どこまでも繋がっている  
広い広い世界。  
境のない世界で生きる人魚。  
そんな人魚が運んでくるのは様々な心情。  
自分が置かれている環境の現状、変えるための努力、未来に対する憧れや不安。

理想と現実が入り混じる環境への想い。  
その想いを今、ここに。

最優秀賞



## 一億年の時を超えて

古藤 勇魚

ひとたび海に流されたものが微生物によって分解され、姿を消すまで何百年、何千年、場合によっては何百万年かかるものさえあります。漂着物は、その膨大な時間を海というタイムマシンに乗って現代に蘇ったものなのです。そしてこれは、ずっとずっと遠い昔どこかで流された木がその奥底にある記憶をひそかにかかえて、ここ水見海岸で打ち上げられ、その姿を現したものです。

優秀賞



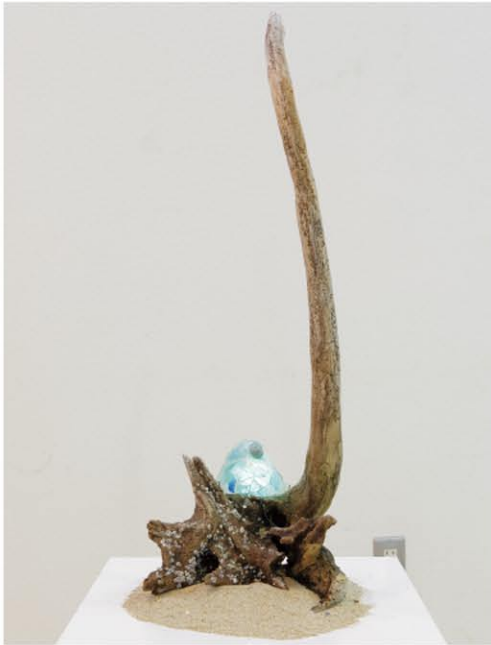
## 僕達は重たいんだ！

中村 萌

出会った時はあんなに大切に扱ってくれたのに！  
別れの時は軽いんだね！

僕たちは皆、同じ「重さ」なんだ。

優秀賞



## 旅人

一原 愛

漂着物の元は私たちが生み出した物でした。それが川に落ち、砕けて、海に入り、波に揉まれ、そして陸に帰ってきた時には異なる姿になっているのです。旅の間に傷つき疲弊したものや、様々な出会いに優しさを知ったものなど、それぞれ旅での体験は違ったようです。

海での旅を終えたもの達の中で、きらきらと輝くものに私は出会いました。彼らは水底をのんびりといい旅をしてきたようです。近くには海面を漂いながら運命的な出会いをしてきたものがありました。お互いの異なる生まれや旅路のおしゃべりをしているのかもしれませんが。そうしてお喋りに飽きたらまた旅に出るのです。

彼らは私たちと何一つ変わらない、旅人なのです。

奨励賞



## 消えないコト

宮本 美咲

雁字搦めにされても自然は朽ちて循環する。  
生み出された人工物は消えずに存在し続ける。  
焼却? 地中深くに隠す?

目の前から消えても“事実”は消せない。  
消えない人工物はどのように在り続けるのか。  
救われる日はいつだろうか。

増えすぎていつか自然を覆い隠さないように。

奨励賞



## 侵食

宮内 海音

今、海には多くのごみが漂流しています。そしてその多くを空き缶やガラス瓶などの、人工物が占めます。本来あるべきではない場所に捨てられた人工物は、本来そこにあるべきの自然を侵食し、破壊します。

全体の形を手のようにしたことで、迫り来る人工物の侵食に対し、もがいている自然を表現しました。

奨励賞



## 漂流する巣

湯口 遥花

ゴミの集合が生き物になり、巣を作っていく。どこで生まれてどこから来たのか、漂う物を絡めては巣に巻き込んで移動して行く。

生きている鳥の羽も、死んでいった鳥の羽も纏い、ゴミと雁字搦めになりながら、漂流してきたのだ。

成長なのか、退廃なのか、今もどこかに漂流しているかもしれない。



## ただいま

前田 千嘉

ゆらゆら漂って海岸に辿り着いた流木やごみたちを使い、船に見たてて波の動きを表現した。植物を入れることで陸に再び辿り着いたことを表し、その上、鉢としての再利用も可能。

海岸に行つてごみを拾っていると、ごみも流木も本来とは違う形になっている。ぼろぼろで小さくなって丸みも出ている。普段はきれいな材料を買ってきて作品を制作するが、すでに材料として扱われなくなったごみを使うことで、普段の制作では出せない表情が出せたと思う。



## 雨上がりの空に

竹松 茉那 橋本 星奈

海辺での休憩処。雨上がりの下、夕日に照らされてきらきらと光る浜辺で、そっとあしを休める。静かな波の音が聞こえ、窓からは虹がみえる。どこか優しい癒しの空間がそこにはあった。

海を渡って、幾度もの形を様々に変えてきた自然物が、人工物と溶け合い新たな形を生み出す。



## Re

北東 かなみ

砂浜に落ちているわたしたちが捨てたゴミでもきれいなものが創れるのだとしたら。

そのゴミたちは、本来どれだけ美しいものだったのだろうか？



## くらげロープ

長谷川 茄鈴

浜辺にたくさん落ちていた、いろいろな色のロープ。誰かがほどこいて捨ててしまったのか、ちぎれて流れてきてしまったのか、どこでなにを結んでいたのでしょうか。



## Cuttle fish

森田 志宝

雄大な海で泳ぐイカの姿をイメージ。

鮮やかで美しい海の水色と、イカの透き通った白色が溶け合うような色合いにしました。

海からごみがなくなり、生き物たちが住みやすい環境になることを祈っています。



## 生きとし生ける 西村 賢人

今回の作品で使用した漂着物にも元の形があり、役目があり、命があった。その命たちは死んで、海で漂い、浜に流れ着いた。浜に流れ着くまでに、一度死んだ命は潮の流れにより、海の生き物によりもう一度命を吹き込まれる。その命たちは、鳥となり、虫となり、妖精となり姿を変えて、ここに在る。



## コア 井澤 郁子

筆っても掻いてもとれない。  
見えないうちに増えて食い込んでいく。



## the earth 森本 倫子

氷見の海岸に漂着した発泡スチロールを、地球に見立て自然破壊の進行を表現しました。表面を金属の様な質感に仕上げたのは、この現状を強く記憶して欲しいという願いです。また、こうしている間にも自然破壊は、進んでいます。

県内をはじめ国内の海岸に流れ着く多くの漂着物（漂着ごみ）、そして、日本国内からも流れ出ていくたくさんのごみ（漂流ごみ）…きれいな海岸の景色を損なうだけでなく、海に暮らす生き物や漁業への影響も心配されています。

こうした海洋ごみのほとんどが身近な生活ごみであることを、皆さんご存知でしたか？私たちは、知らず知らずのうちに大切な海を汚しているのです。きれいな海を将来に残していくためには、私たち一人ひとりがこのことを理解し、身近なごみをきちんと始末するなどの取組みをすぐに始める必要があります。

このようなことから、次の時代を担う青年芸術家が海岸漂着物を利用して制作したアート作品を展示する「漂着物アート展2014」を開催いたします。

このアート展をきっかけとして、私たちの大切な海を守るために何をすべきか考え、みんなで行動してみませんか。



**氷見市海浜植物園**  
富山県氷見市柳田 3583  
TEL0766-91-0100



**(公財)環日本海環境協力センター**  
富山県富山市牛島新町 5-5  
TEL076-445-1571